

2022 年度事業計画

1. 調査研究の推進

(1) D-Call Net の研究（継続）

2021 年末までにドクターヘリ基地病院（全国 63 病院、54 機）のほぼ全て（62 病院、53 機）が D-Call Net を導入したため、2022 年度はドクターカー運用病院への D-Call Net 導入を推進する。

新車搭載の車載機型（第 1 種）D-Call Net については、ステアリングコミティニーにおいて交通弱者（歩行者、自転車乗員）を対象とした次世代 D-Call Net の要求仕様について調査研究を継続する。

使用過程車にも搭載可能な画像活用型（第 2 種）D-Call Net については、D-Call Net 研究会傘下の WG において第 2 種 D-Call Net 運営要領を作成し、2022 年度より試験運用を開始する。

(2) ドローンとドクターヘリのコラボレーション（継続）

2021 年 6 月 28 日策定の「空の産業革命に向けたロードマップ 2021」によって 2022 年度中に有人地帯での目視外飛行（レベル 4）が実現されることを念頭に、ドローンとドクターヘリのコラボレーションについて実証実験を行う方法を開拓することとする。

(3) HEM-Net シンポジウムの開催

ドクターヘリの質的向上を実現するため、広域連携のあり方等時局性のあるテーマを選んで、HEM-Net シンポジウムを開催する。新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、昨年度実施したオンラインでの開催も検討する。

(4) ドクターヘリ夜間運航に関する調査・研究（継続）

「ドクターヘリの夜間運航に関する調査研究報告書（案）」について審議するため、2022 年 1 月 20 日に東京において初の委員会を開催する予定である。出席できない委員においてはオンラインでの参加となる。

報告書が最終的に承認された暁には、ドクターヘリ推進議員連盟に配布するとともに、実態調査に協力いただいた消防庁、警察庁、防衛省及び国土交通省に配布するほか、日本航空医療学会、全日本航空事業連合会等関係機関に配布する予定である。

また、ドクターヘリの夜間運航については、この報告書をもって終わるのではなく、日本航空医療学会と連携し、継続して調査研究を深めていく予定である。

(5) 「空飛ぶ車クルマ」による医師搬送システム（継続）

「空飛ぶクルマ」による医師搬送システム検討コンソーシアム（NEXTAA）」の活動に参画する。そしてこの「医療効果WG」及び「運用体制WG」にそれぞれ委員を派遣し、同コンソーシアムの取組み目標「2025年の大阪万博における会場内での全域運用（デモフライト、実証運航、医療待機）」の実現に向けての取組に関心を持って協力をする。

2. 情報の発信

(1) HEM-Net プラザの発刊

2019年10月に創刊された「HEM-Net プラザ」は、2021年度中、第5号から第12号までの8号を発刊した。

そのうち、第8号においては、「会津若松中央病院の運用するドクターカーとラピッド・リスポンス・ヘリ」について取材した折、対談に応じてくれた同院救命救急センター長の小林辰輔先生から、福島県のドクターヘリの運用に関し、「会津地方は、福島市にある福島県のドクターヘリが飛来するのに50分ほどかかるが、新潟の長岡のヘリは20分ほどで来る。ただ、「自県優先主義」のしほりがあり、福島県のヘリが使えるかどうかを確認してからでないと、長岡のヘリは要請できないことになっている。」との言及があった。

この記事を引きかけとして、2021年度事業報告で述べたとおり、ドクターヘリの運用に関する「自県優先主義」と「生活圏優先主義」の対比を、第10号、第12号と続けて特集して、その差異を浮き彫りにした。こうした問題提起は、12月13日に開催された「ドクターヘリ推進議員連盟」において、「ドクターヘリの広域連携に当っては、・・・都道府県境の住民の命をより迅速に救うため「生活圏」を優先することを十分検討するよう各都道府県に促すこと。」という決議に繋がっていったところである。

今年度も、引き続き、その時々の時局性の高いテーマを選んで問題を提起できるよう配慮しながら、おおむね年間4号～6号のペースで、発刊を続けていきたい。

(2) 各地域の諸団体との連携による広報宣伝活動等の展開

各地域の諸団体、医療関係者等と連携して、ドクターヘリの普及宣伝、質的向上に関する「研究会」、「セミナー」などを主催・共催し、またはそれに積極的に参加するとともに、新聞・機関誌等に寄稿するほか、メディアの取材に対応していきたい。

3. ネットワークの拡大

(1) 賛助会員・寄付者の拡大

引き続き、賛助会員・寄付者の拡大に努める。

(2) 関係団体との連携の強化

毎年度開催されるドクターヘリ推進議員連盟の総会に出席し、課題の報告を行うとともに新たな課題について支援をいただくこととする。

日本航空医療学会の総会の際に開催されるドクターヘリ連絡調整協議会に委員として出席し、HEM-Net について報告するとともに情報の収集を行うこととする。

ドローンについて、JDC のフォーラムに出席し、関係者との連携を図ることとする。